

OCHIS

# SAS調査概要発表

## 23年度「リスク理解し対策を」

ヘルスケアネットワーク(OCKHIS)はこのほど、平成23年度の睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の実績調査概要を発表。それによると受診者の約5人に1人が精密検査の対象となっており、

D判定者(D+判定者含む)を年代別で見ると、40歳代が579人と最も多く、続いて50歳代が364人、30歳代が254人、60歳代が148人と高年齢

者は28人で、「自覚の有無と判定結果にほとんど相関関係がないことが判明した」としている。

作本理事は、「てんかん患者の交通事故は全体のほんの一部。SASはD判定とD+判定が20%の割合を占めており、大惨事につながる。SASを理解し対策に努めていただきたい」と説明し、「SASには即効性のある効果的な治療があり、治療をすれば事故は減少する。公共交通機関であるトラックドライバーにはSAS検査および健診後の事後チェックにも努めていただきたい」と語る。(山田吉明)

作本貞子理事は「騒がれているてんかん患者による交通事故の割合よりもSASの方が断然リスクが高く、足元にあるSASを認識し解消に努めていただき

また、肥満がSAS症状を増加させる一原因と言われているが、BMI値(体格指数)が高くなるほど、D判定者、D+判定者の割合も増加している。



作本理事

22年度は25・8%と、約5人に1人が重症者の割合となっており、22年度は244人がD判定者で、そのうちD+判定者は273人。逆に自覚認識があると答えた510人中、D判定者は144人、D+判定